

(大志と倫理性のある) 論文執筆のすすめ

田中啓二*

私は韓国における生命科学研究の動向に少なからず詳しい。韓国の四半世紀における学術の発展は中国におけるものと同様に凄まじいというのが私の感想であるが、本稿ではこのことに言及する意図は無い。私が韓国に良く通じているのは、文字通り親友と呼ぶに相応しい友人との交流があったからである。私が30余年前、米国ハーバード大学医学部に留学していた時期、ポスドクとして同じ釜の飯を食った同世代の友人がソウル国立大学 (Seoul National University: SNU) 自然科学部の教授を務めており、私たちの深い交流は帰国後から現在に至るまで途切れることはなかった。実際、私のSNU訪問は20回前後にも及び、また彼の友人の日本訪問は私の訪問を遥かに凌駕するといった案配であり、ほぼ毎年往来してきたことになる。とは言え、私はSNU以外殆ど訪れたことはなかった。ところが本年、延世大学 (Yonsei University: YSU) に招かれた。SNUとYSUの関係を日本で言えば、東京大学と慶應大学に準えるように、YSUは韓国における私学の雄である。YSUの広大さには瞠目すべきものがあったが、私は建物の荘厳さなどには関心はなかった。私の目を強く引いたのは、「YONSEI where we make history」という大学の設立理念であった。歴史を創る(多分、歴史に名を残す人物を育成・輩出する)大学を目指す、とは何と単純明瞭な標語ではないか? この大志に溢れた標語に魅入られると、何となく日本文化の円熟が墮落と叱責されているかのようなある種の焦燥感を抱かざるを得なかった。この意気軒昂とした高い志は、われわれ日本人が「遠い昔に失った気概ではないか」と、深く感じ入った次第である。翻って「本邦の若い研究者たちには、歴史に名を留めようとする大志に些か乏しい」と感じるのは、私の杞憂であるかもしれないが、正直な感想でもある。しかしこの覇気こそが科学を成熟させる原動力であると私は考えている。

閑話休題: NHKの大河ドラマの多くは、戦国時代における英雄たちの物語が幕末から明治維新の時代に活躍した若い志士たち(この流れに組抗して華々しく散った新撰組も含めて)の武勇伝である。これらの人たちは、良くも悪くも日本の歴史を創るために獅子奮迅の活躍をして歴史に名を留めた英雄たちである。多くの日本人を魅了する物語は、名もなき庶民の未曾有の活躍・出世ドラマである。

他方、同じ例は科学史においても枚挙に暇が無いくらい見受けられる。しかも科学史に名を残すことができるのは、科学者に等しく与えられた平等な権利である。そして後世に影響を与えるような優れた論文を執筆することが、この権利を行使する唯一無二の手段である。しかし所謂 Impact Factor が記載されている雑誌は、生命科学分野だけでも世界で5,000誌を優に超えている。この事実は、ほとんどの論文が歴史に埋没することを意味している。しかしそれでも私は論文執筆の必要性をことあるごとに強調してきた。その理由は明瞭で論文執筆以外に科学者が自己表現できる、そして歴史を創るチャンスはないからである。歴史に燦然と輝くような立派な論文を発表することには、名誉を得ることや研究費の確保に繋がるなど大いなる打算が見え隠れするものの、これらは努力と運の対価であり、その批判は笑止千万なことである。最近話題になっている研究不正の問題は、表面的には、欲意に満ちた一部の研究者たちが打算の陥穽におちたもの、であるかのように喧伝されているが、奥底に潜む研究者たちの倫理感の欠落を顕在化させたということに本質があり、由々しき問題を孕んでいると言わざるを得ない。民主主義が導入され学術において自由な精神が謳歌されると、わが国独自の伝統や倫理観が蔑ろにされ、大学及び科学者たちが「性善説」と「性悪説」の狭間で無関心を装い、手を拱いてきた結果が今日の危機を迎えたと言っても過言でない。即ち自由の獲得の代償に科学者たちが無意識に醸成してきた倫理観の喪失は、教育・学術を指揮してきた関係者たちの不作為の結果であることを強く認識する必要がある。その是正を図るための一朝一夕の策など存在しないが、一般に不正に対する罰則の強化で臨もうとする傾向にあり、例えば、科学者コミュニティがマスメディアを動員して、一罰百戒を声高に喧伝しても真の解決策にはならないと思われる。解決策の一つは、厳しい倫理性に裏付けられた公正な論文を執筆することによってしか研究者としての未来はないという常識が支配する世界を創成することである。そして悪貨が良貨を駆逐するのではなく、良貨が悪貨を駆逐するが如くに歴史の批評に堪え得る健全な論文の発表によってしか危機に瀕した生命科学を救う有効な手段はないように思われる。

*東京都医学総合研究所所長